

中 学 校

平成 2 5 年度

# 教育研究員研究報告書

美 術

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	6
IV	研究の構想図	6
V	研究の内容	7
VI	研究のまとめと成果	24
VII	今後の課題	24

## 研究主題「鑑賞の能力の育成」

### I 研究主題設定の理由

中学校美術の教科目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して達成するものである。中学校学習指導要領解説（美術編）の第4章「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「B鑑賞」に当てる授業時数については、「適切かつ十分な授業時数を確保すること」と示されており、鑑賞の学習を年間指導計画の中に位置付け、鑑賞の目標を実現するために必要な授業時数を定め、確実に実施しなければならないことが示されている。

鑑賞の目的を実現するためには、鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど、指導計画を工夫する必要がある。

しかし、本部会において、これまでの鑑賞の実践について振り返ったところ、美術史のような知識を伝達するための学習ばかりに偏ってしまっていることが反省点として挙げられた。また、表現に関しては、個々の教員がこれまで身に付けた専門性を生かし、自信をもって題材設定や授業づくりを実践してきたが、鑑賞については、題材の設定や学習内容、生徒への発問、評価方法などについて未だ不安を感じ、経験が不足しているとの共通認識があった。また、同様な悩みをもった教員はほかにもいるのではないかと考えた。

例えば、表現の題材については、研究授業等で配布される指導案や、生徒作品の展覧会等に展示されている作品を参考として、題材研究を行うことが可能であるが、鑑賞においては、教師の発問や生徒の反応など、どのように授業を進行していくのか、また、どのような準備を行っているのか、情報を得ることが難しい現状がある。

これらのことから、不安を抱え、なかなか鑑賞の授業が実践できていない教員等の実態を踏まえた上で、課題を見出し、課題解決の手立てを具体化しながら、どのような題材や指導を行えば、鑑賞の能力を育成していくことができるかを研究・検証していくことが重要であると考えた。

そこで、本研究では、各学校の美術科の教員に調査協力を依頼し、鑑賞授業の実態を把握することで、特に課題となっている部分を見出し、課題解決のための手立てとなる題材を、育成する資質や能力を明確にした上で開発し、検証することとし、研究主題を「鑑賞の能力の育成」と設定した。

### II 研究の視点

本研究では、「鑑賞の能力の育成」という視点から、都内公立中学校の美術教員を対象として、「鑑賞の授業に関する調査」を実施し、鑑賞の授業の実態を把握し、課題を見出し、課題解決の手立てについて検証していくこととした。

#### 1 調査の概要

- |          |                  |
|----------|------------------|
| (1) 対象者  | 都内公立中学校正規採用の美術教員 |
| (2) 実施時期 | 平成25年6月          |
| (3) 配布数  | 160通             |
| (4) 回答数  | 76通（回答率48%）      |

中学校学習指導要領解説（美術編）には、中学校における鑑賞の学習内容として、「身の回りの造形や美術作品、文化遺産、自然や身近な環境の中にみられる造形的な美しさを感じ取るとともに、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解することや、美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること」などを重視することが示されている。本研究では、これらの中から、「生活に結びついた鑑賞授業」「表現と関連した鑑賞」「美術文化に関する鑑賞」を鑑賞の授業の三つの視点として定め、それらの取組についての実態を把握できるような調査項目を作成した。また、各教員が鑑賞の評価について、どのような課題を感じているのかについて、明らかにできるように、調査項目を設定した。

## 2 調査内容及び調査結果

1 あなたは、表現と鑑賞の関連した授業など、部分的に鑑賞の活動を行う場面を設定した授業を、一年間にどれくらい行っていますか？各学年で当てはまる番号1つに○をつけてください。（いずれか1つに○）

	①1時間		②2～3時間		③4～6時間		④7～10時間		⑤11時間以上		合計	
	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合
1年	1	1%	27	36%	33	43%	9	12%	6	8%	76	100%
2年	1	1%	31	41%	30	40%	10	13%	4	5%	76	100%
3年	4	5%	24	32%	33	43%	9	12%	6	8%	76	100%

※ 1時間のうち、部分的に鑑賞の活動を行う場面を設定した授業は、第1学年及び第3学年では4～6時間が最も多い。

2 あなたは、一時間全てを鑑賞の活動として設定した授業を、一年間にどれくらい行っていますか？各学年で当てはまる番号1つに○をつけてください。（いずれか1つに○）

	①行っていない		②1時間		③2～3時間		④4～6時間		⑤7～10時間		⑥11時間以上		⑦無回答		合計	
	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合
1年	11	14%	9	12%	37	49%	19	25%	0	0%	0	0%	0	0%	76	100%
2年	11	1%	10	41%	36	39%	18	13%	1	5%	0	0%	0	0%	76	100%
3年	9	12%	9	12%	31	41%	20	26%	5	7%	1	1%	1	1%	76	100%

※ 一時間全てを鑑賞の活動として設定した授業は、第1学年及び第3学年では、年間2～3時間が最も多く、第2学年では年間1時間が最も多い。いずれの学年においても、1時間全てを鑑賞の活動として設定した授業を行っていない学校がある。

3 1で回答した部分的に鑑賞の活動を行う授業として、最も多いものはどれですか？次の中で当てはまる番号すべてに○をつけてください。（複数回答可） 回答人数 76 回答数 122

①表現の授業の導入段階で行う		②表現の授業の製作途中段階で行う		③表現の授業の終焉段階で行う		④表現の授業と関連した鑑賞の活動は行っていない		合計	
54	44%	29	24%	36	30%	3	2%	122	100%

※ 部分的に鑑賞の活動を行う授業として①表現の授業の導入段階で行うが、最も多い。

4 授業で行う鑑賞の内容について、どのような活動が一番多いですか？当てはまる番号1つに○をつけてください。(いずれか1つに○)

①見たり、感じたりすることを中心とした鑑賞		②表現と関連した鑑賞		③生活の中の美術の働きに関連した鑑賞		④美術文化に関する鑑賞		無回答 その他		合計	
23	30%	24	32%	0	0%	19	25%	10	13%	76	100%

※ 授業で行う鑑賞の内容として最も多いのは、②表現と関連した鑑賞であり、次いで①見たり、感じたりすることを中心とした鑑賞、④美術文化に関する鑑賞である。③の生活の中の美術の働きに関連した鑑賞を行っているという回答は無かった。

5 鑑賞の授業で多く使う場所や教材・教具等はどうのようなものですか？次の中で当てはまる番号すべてに○をつけてください。(複数回答可) 回答人数 76 回答数 371

①教室		②美術室		③図書室		④美術館		⑤PC室		⑥教科書		⑦資料集	
13	3%	73	20%	2	1%	3	1%	6	2%	39	10%	51	14%
⑧プリント		⑨DVD		⑩プロジェクター		⑪実物投影機		⑫生徒作品		⑬外部講師		⑭その他	
43	12%	24	6%	26	7%	18	5%	50	13%	3	1%	20	5%
合計													
1	100%												

⑭その他…電子黒板、プレゼンテーションソフト、自作教具カード、テレビ、タブレット端末、デジタルカメラ、写真、モニター、インターネット、パソコン、インターネット等からの動画、アートカード、図版、ビデオ

※ 鑑賞の授業を行う場所は、美術室が最も多い。使用されている教材・教具等は様々である。

6 あなたは、鑑賞の授業を、自信をもって行うことができますか？当てはまる番号1つに○をつけてください。(いずれか1つに○)

①はい		②まあまあ		③あまり		④いいえ		合計	
14	19%	33	43%	28	37%	1	1%	76	100%

※ 鑑賞の授業を行うことについての「自信がある、まあまあある」と回答したのは62%、「あまりない、ない」と回答したのは、38%であった。

7 あなたは、生徒への鑑賞の授業の成果について、実感や手応えを感じていますか？当てはまる番号1つに○をつけてください。(いずれか1つに○)

①はい		②まあまあ		③あまり		④いいえ		合計	
19	25%	46	61%	8	11%	3	4%	76	100%

※ 鑑賞の授業の成果について「実感や手応えを感じている、まあまあ感じている」と回答したのは86%であり、「あまりない、ない」と回答したのは15%であった。

8 鑑賞の授業で使用するワークシートの感想や活用法で工夫していることを教えてください。

(有効回答数 55)

○ワークシートの項目、内容について
・記述・発問・項目・観点などの工夫、図版の活用。(同内容の回答 27)
・評価項目を入れる。(同内容の回答 2)
○ワークシートのテーマについて
・定期考査、学芸発表会、修学旅行などの取組と関係させる。(同内容の回答 5)
・感じたこと、考えたことを自分なりの言葉で書かせる。(同内容の回答 4)
・表現と関連付けた内容にする。(同内容の回答 2)
・調べ学習や発表を取り入れる。(同内容の回答 2)
・意見や考えを引き出すワークシートと、理解を確認するためのワークシートを使う。(同内容の回答 2)
・生徒間の作品を鑑賞する際、「マイベスト」を選ばせる。
○授業での使い方について
・書かせたワークシートを紹介したり、交換させる。(同内容の回答 4)
・鑑賞の授業の記録を書かせ、評価の材料にしている。(同内容の回答 2)
・文法の間違いなど文章の書き方を気にしないで書くといいと伝えておく。
○その他
・他校と連携する。
・美術便り、学級通信などへの記載。(同内容の回答 2)

※ 27名の教員が、ワークシートの項目や内容について、記述・発問・項目・観点などの工夫や、図版の活用を行っている。

9 鑑賞の授業で生徒の意見や考えを引き出す方法として工夫していることを教えてください。

(有効回答数 55)

・授業(学習)のテーマや内容を工夫する。(同内容の回答 18)
・教材や題材を工夫する。(同内容の回答 15)
・声かけ、発問、働きかけを工夫する。(同内容の回答 13)
・グループ学習の活用。(同内容の回答 10)
・VTS(ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー)の活用。(同内容の回答 2)
・多くの発言の機会を与える。(同内容の回答 2)

※ 鑑賞の授業で生徒の意見や考えを引き出すために、18名の教員が、授業(学習)のテーマや内容を工夫し、15名の教員が教材や題材を工夫し、13名の教員が声掛け、発問、働きかけを工夫している。

10 鑑賞の授業の評価で困ったことはありますか？次の中で当てはまる番号すべてに○を

つけてください。(複数回答可) 回答人数 76 回答数 130

①ワークシートから、どのように生徒の鑑賞の能力を評価すればよいかわからない		②生徒の文章力と鑑賞の能力の違いをどのように評価すればよいかわからない		③鑑賞の能力の評価規準を設定することが難しい		④話し合い活動などによる鑑賞の能力の評価が難しい		⑤考えやまとめなどを発表する評価が難しい		⑥その他		合計	
11	8%	36	28%	23	18%	34	26%	15	12%	11	8%	130	100%

※ 鑑賞の授業の評価で困ったこととして、②生徒の文章力と鑑賞の能力の違いをどのように評価すればよいかわからないとの回答が28%と最も多く、次いで、④話し合い活動などによる鑑賞の能力の評価が難しい(26%)、③鑑賞の能力の評価規準を設定することが難しい(18%)との回答であった。

## 11 今まで行ってきた鑑賞の授業で、うまくいったと思う授業の流れ(生徒の活動)について

教えてください。回答人数 31

- ・ 寺社仏閣等の関する内容と、修学旅行との関連付けた取組（同意見 4 教科書等の図版、プロジェクター、アートカード等を用いる）
- ・ 実物投影機やプロジェクターを活用して自他の作品を相互に鑑賞する取組（同意見 1）
- ・ プリントを活用した生徒作品講評会（同意見 2）
- ・ プロジェクターを用いた鑑賞（鳥獣戯画絵巻、ジョルジュ・デ・キリコの作品
- ・ 作品に描かれた場面等についてのストーリー作成（シャガール、鳥獣戯画絵巻、表現と鑑賞を関連付けた取組
- ・ ポスターの制作と関連付けた、ロートレック、ミュシャ、シエレなどのポスター鑑賞
- ・ 実物の 10 分の一サイズの図版を用いた、「最後の審判」の鑑賞
- ・ グループでそれぞれの作品について話し合い、アドバイスをし合うなどして、自分の作品を自己評価する取組（同意見 2）
- ・ 自分で撮影した写真の鑑賞
- ・ ワールドカフェ方式で「風神雷神図屏風」を鑑賞する。
- ・ ミニチュアの屏風型図版等を用いて、「風塵雷神図屏風」を鑑賞する。
- ・ 図版を用いて「ゲルニカ」を鑑賞する。（同意見 4）
- ・ ピカソの表現の変遷を用いて、キュビズムを理解し、キュビズムで生物デッサンを行う。
- ・ アートカードや図版から、お気に入りの作品を決め、発表する取組
- ・ 自分の陶芸作品を美しく展示し、感想を書いたカードを用いて鑑賞し合う。
- ・ 教科書の図版を用いて、題名や作者を伏せた状態で自由に物語を考える取組
- ・ 教科書を用いた屏風絵の理解
- ・ アートカードとワークシートを用いた人物画の鑑賞
- ・ 教科書やプロジェクターを用いた画家の自画像の鑑賞
- ・ ダリ、マグリット等の作品を用いた、シュルレアリズムの鑑賞
- ・ ロダンの「ピアニストの手」「カテドラル」、高村光太郎の「手」を用いて、「手の塑像」に関連付けた鑑賞
- ・ プロによるレタリングや絵文字の鑑賞

### 3 調査結果に基づく研究の視点

調査結果から、「生活に結びついた鑑賞授業」「表現と関連した鑑賞」「美術文化に関する鑑賞」の三つの視点のうち、「表現と関連した鑑賞（32%）」「美術文化に関する鑑賞（25%）」については、行われているが、「生活に結びついた鑑賞授業」については、全く行われていないことが分かった。また、鑑賞の授業の成果について多くの教員が実感や手応えを感じ、ある一定の自信はもっているが、生徒の書く文章や話し合いの様子などから、どのように鑑賞の能力を見取るのかについてなど、鑑賞の能力の評価について、課題意識が高いことがわかった。

さらに、「鑑賞の能力の育成」という視点をより具体化し、各検証授業においては、「鑑賞授業のねらいの明確化」「発見・気づき・新たな見方」の二つを研究の視点の重点とした。この二つの重点は、宿泊研究会に講師として御指導いただいた、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官である、東良雅人先生の講話にあったキーワードである。この「鑑賞授業のねらいの明確化」は、鑑賞の授業にあるねらいとは何かを考察し、ねらいを明確化して題材の目標設定し、評価のポイントに注目し題材設定を行うことである。また「発見・気づき・新たな見方や感じ方」は、鑑賞授業を進めていく上での 3 本柱である。この二つの重点を軸にした鑑賞作品の提示の仕方や、ワークシートの作成によって、鑑賞する目的や学びが生まれると考えた。

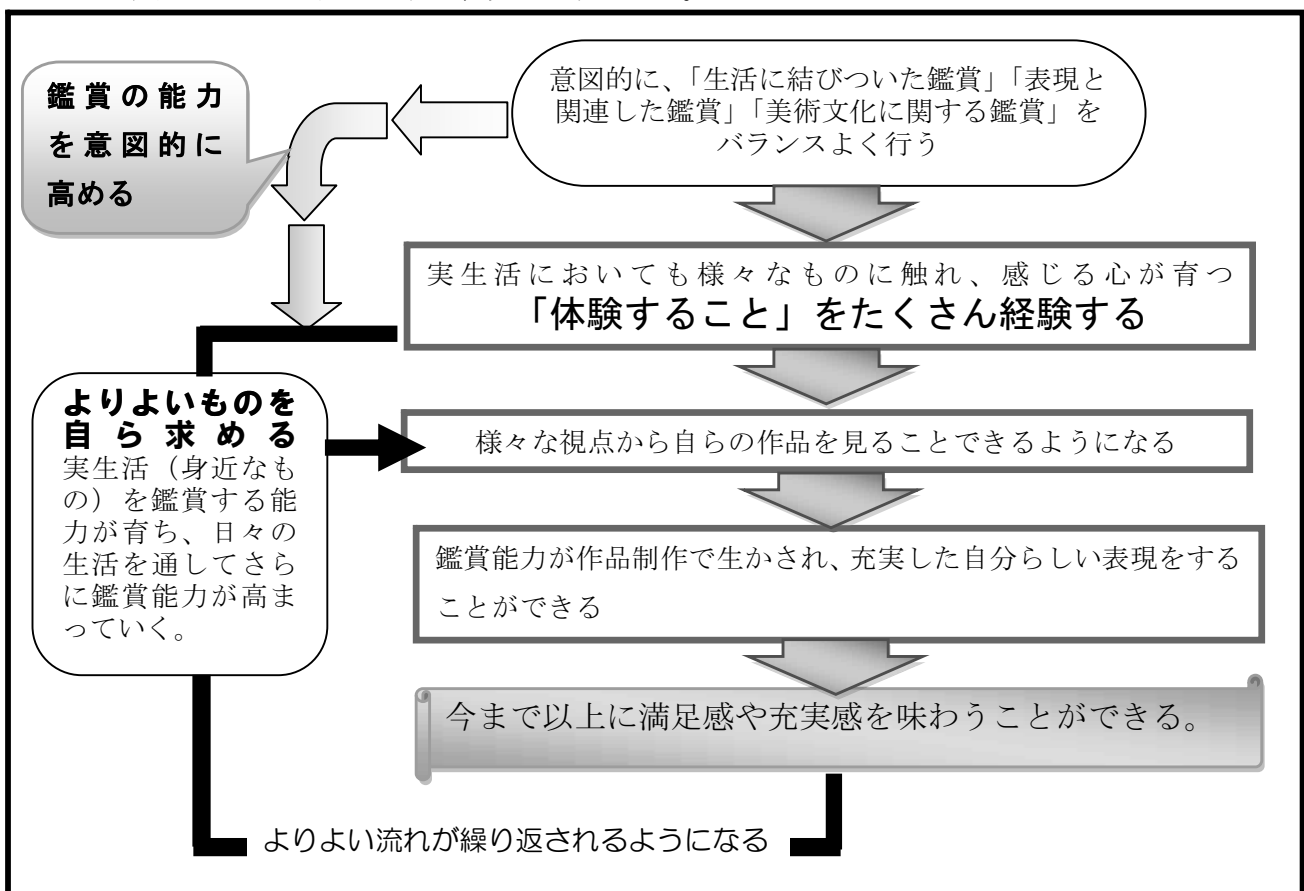
これらを研究の視点とし、「誰もがができる、1 時間で完結する内容の鑑賞授業」を題材として設定し、検証することとした。

### Ⅲ 研究の仮説

鑑賞の授業は、「生活に結びついた鑑賞」、「表現と関連した鑑賞」、「美術文化に関する鑑賞」をバランスよく行うことが大切である。特に、「生活に結びついた鑑賞授業」は身近なものに触れる機会が多くなり、身近なものを鑑賞し感じる心が育つ。そして、興味を持って日々の生活を送ることでさらに鑑賞の能力が高まる。その高まった鑑賞の能力が、作品制作において、様々な視点から自らの作品を見ることができるようになり、充実した自分らしい表現をすることができるようになり、今まで以上に美術の教科目標の達成へ向けて、満足感や充実感を味わうことができると仮説を立てた。

### Ⅳ 研究の構想図

本研究を一つの図に示すと、次のようになる。





## V 研究の内容

### 1 研究の方法

- (1) 現在の中学校美術科教員における鑑賞授業の現状と課題を把握するために、都内公立中学校に勤務する美術科教員に対してアンケートを行った。
- (2) アンケート結果より出てきた、課題や現状を基に、研究主題に迫るための研究仮説及び研究構想図を立てた。
- (3) 研究主題及び仮説、構想図に基づき「生活に結びついた鑑賞」と「鑑賞の評価」の二つの視点を意図的に設定し、
  - ①生活に結びついた鑑賞授業
  - ②生活の中での写真を使った鑑賞授業
  - ③日本文化と生活に結びついた鑑賞授業を行い、検証した。

検証授業を行うに当たっては、次のことを踏まえ指導計画を作成した。

  - ・実生活に結びついたものを教材として用いて、題材を設定する。
  - ・適切な評価ができるワークシート作りを工夫する。
- (4) 検証授業における鑑賞の能力の評価について、有効なワークシート作りを追求した。
- (5) 検証授業実施後、授業中の観察記録やワークシートなどが有効であったかどうかを検証し、次の検証授業に生かした。
- (6) 研究全体を振り返り、研究仮説で設定した生徒の変容について検証し、本研究の成果と課題をまとめた。

### 2 評価についての考え方を提案するためのワークシートの取扱いについて

調査結果から出された鑑賞の能力の評価についての課題は、国立教育政策研究所から出されている「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考とし、ワークシートを中心とした発問の工夫により、解決の手立てが図れるのではないかと考えた。

何のためにワークシートを作成するのか、鑑賞を通して育成したい資質や能力が見取ることのできるワークシートとはどのようなものかについて考え、具体的に題材の目標に基づいて提案できるように、工夫した。

また、それぞれのワークシートの設問が、鑑賞の能力の評価とどのように関連しているのかについて明確にできるよう工夫した。

## 2 検証授業

### 検証授業 1

羽村市立羽村第一中学校 教諭 鈴木 嶺

#### 1 題材名

「生活の中の美術」 B鑑賞（1）ア 第1学年対象

#### 2 題材の目標

生活の中の美術に目を向け、身近な生活用品を鑑賞することで、普段何気なく使っているものについて関心を持ち、造形的なよさや美しさ、生活における美術の働きや機能と調和のとれた美しさに対しての見方を深めるとともに、ものに対しての考えを説明し合うなどして対象の見方や感じ方を広げることが目標である。

#### 3 題材観

##### （1）研究テーマとの関連

今回掲げている「鑑賞の能力の育成」というテーマについて研究を進めていく中で、鑑賞についてのアンケートから、身の回りにあるにもかかわらず「生活に結びついた鑑賞」の授業実践が少ないという結果が明らかになった。そこから「生活に結びついた鑑賞授業」に着目し、生活における美術の働きなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする態度や価値観を見いだすことができるかを検証する。

そこで、実生活に関わる鑑賞授業を行うことで、様々なものに触れたり感じることで、そのもののよさや美しさに気づき、自分の見方や価値観を見いだすことができる鑑賞の能力を育む。

##### （2）教材観

「ハンガー」は、中学生が制服を掛けるために使ったり自分のお気に入りの服を掛けたりと、生活の中の身近なものである。このハンガーを題材とすることで、自らの使用してきた実体験や価値観を基にして、生活における美術を鑑賞しやすく感じ取りやすいと考えた。ハンガーの全体や部分に着目し、形の異なるものを対比させることで、「この形にはこんな機能がある」、「このカーブの曲線がよい」など、形や色などから「機能性と美の調和」について考え、自らの生活になげ、生活をより豊かにしていく鑑賞の能力を高めることができる。

また、この教材を通して生活における美術の働きを感じることで、身の回りのものに対して、自分の新たな見方や価値観の幅を広げていく。

#### 4 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価基準	(1) 日常生活の中にある美術に関心をもち、自分の見方や価値観を深めようとしている。			(1) 形の良さや機能、特徴など自身の見方で発見し、感じ取ったことをワークシートに表したり、班で発表し説明し合うことで、見方や感じ方を深めることができる。

#### 5 指導計画と評価計画

時間	学習活動と○学習内容	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業の目標を確認する。</li> <li>○鑑賞の授業では自分の見方や感じ方が大事であることを学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞の内容と活動を説明する。</li> <li>自分の見方や感じたことを大切に、考えたことそのままを具体的に言葉で表現できるよう、見方や考え方を実際に見せて説明する。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中にある美術の見方について、文房具を例にして課題1・2の取り組み方を説明する。</li> <li>○モノの機能性について観察し、形などよく考え作られていること(機能性)を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題1 個人のワークシートに、ハンガーの機能性について気付いたことを考えたことを記入させ、お互いに班で発表し合い意見を共有する。</li> </ul> </li> <li>○2つのハンガーを比較し、自分の価値観で選ぶものについて書き出し、班でお互いに説明し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題2 形の異なるハンガーをもう1つ班に配布し、形や色などを元に2つを見比べて、美しさ/機能性/素材や形はどうかを個々に選び、選んだ理由をワークシートに記入する。</li> <li>発表 自分が選んだハンガーのよさについて、班で理由を発表し説明し合う。</li> </ul> </li> <li>○実際にハンガーを使う場面を想像させるために、大画面テレビで様々な部屋や衣類(吊るすもの)の写真を見せ、どのハンガーを選ぶか考えさせ、それぞれの価値観を発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文房具を例にして、機能性や美しさなど、そのものの形や色などに注目していけるよう、具体的に説明する。</li> <li>ハンガーの機能的な形に視点を当てて、意見を出したり考えたりできるように発問で促す。</li> <li>機能性について考えさせ、便利なことや使いやすさなど、箇条書きで気付いたことを記入させる。</li> <li>2つのハンガーから1つを選ぶ理由として、具体的な意見が出せるように例えを出す。</li> <li>自分の見方や感じ方を大事にして、すぐに口に出さず、その理由を個々の具体的な言葉で記入させる。</li> <li>それぞれの価値観の違いに気付かせられるよう、個々の意見を発表し、自分とは異なる意見をメモし、新しい見方・考え方を知る。</li> <li>2つのハンガーにそれぞれの価値を見いだした後に、実際に使うところを想像し、日常のモノの見方や価値意識の持ち方などを広げるきっかけを作る。</li> </ul>	<p>ア(1)参加状況の確認</p> <p>エ(1)ワークシート</p> <p>エ(1)ワークシート</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな視点や価値観で生活を考え、自分のお気に入りを探し紹介する。</li> <li>身の回りのものの見方について改めて考えることで、これからの生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのものから例を挙げ、自分の価値観を基に生活に結びつけて考えさせる。</li> <li>身の回りのものの形や機能性、更には色や質感について、個々に思う美しさや便利さが違うこと</li> </ul>	<p>エ(1)ワークシート</p> <p>ア(1)参加状況の確認</p>

	<p>の中に鑑賞という視点を取り入れ、生活の中からよさや美しさを感じ取ることで、生活をより豊かにしていく美術の大切さを伝えまとめる。</p>	<p>に気付かせ、自分の価値観の大切さに気づかせる。</p>	
--	--	--------------------------------	--

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 生活の中にあるものから、身近な美術という視点に気付く

普段何気なく生活の中で使っているハンガーを鑑賞することで、生活に結び付いた美術という視点をもたせることができたことは今回の題材の成果である。色や形から「美しさ」を考え、形や使い方から「機能性」を考え、自分の価値観をもとに考え判断することで、自分の中の生活のものに注目させ、より深く気付かせることができた。授業の中で、「この鉄のハンガー美しいよね」「私はこっちの方がよい」という会話があり、それぞれの価値観に基づく「美」への考え方が共有されていた。各家庭で針金ハンガーを変形させ使っている意見を出し合い、新たな「機能」について考えを共有し合うことができていた。また、2種類のハンガーを比較することで、美しさと機能とをどのように判断し、自分の好みを選択するか考えさせることにより、個々の求める機能美の違いや個々の価値観の違いがあることに気付かせることができた。このような鑑賞の授業は生徒も意欲的に参加しやすく、取り入れていくべき鑑賞授業であると感じた。

#### ② 美しさや機能から形や色の意味を考え、生活を豊かにするきっかけ作りの鑑賞

「ハンガーのここ（色や形）の意味って何だろう？」「もっと（色や形が）こうなっていればいいのに」と身近なものをじっくり見ることで、ものに対して疑問を持たせることができたことは成果である。名作を鑑賞する際も、「美しい・すばらしい」以外に、「なぜこのような絵を描いた？」「何を表現したかった？」と疑問を持つことで興味関心が高まり、その答えを個々に考えることで様々な感性や創造力が磨かれ、今後の作品制作に生かされていく。身近な生活用品を鑑賞することで持つ疑問も同じである。このような疑問を持つことで、今後の生活をよりよく豊かにしていくために求められる美しさや機能性について考えることができる。授業の中でも、もしこの部屋に使うハンガーだったらどれを選ぶかという問いに対して、「部屋の色に合わせてこの色のハンガーがよい」「部屋の雰囲気にあわせて丸みのあるハンガーがよい」という意見が出た。これは個々の感性を働かせ、自分の価値観を持てたと考える。普段から何気なくこのような判断をしている生徒も多いはずであるが、授業で実践して意識化することで、生活をより豊かにしていくきっかけの授業になると考える。

#### ③ 実物や映像機器の使用でより深く気付かせる教材

針金ハンガーだけでなく各班にもう一つずつ異なる形のハンガーを用意することで、見比べる際に、選択した理由を具体的に記入し、発表の際も部分などを示しながら具体的に説明することができていた。また、「この部屋で使うならどのハンガーを選ぶか」という発問の際に、大画面に写真を映すことでよりイメージしやすく、自分が使うことを想定し、回答することができていた。

### (2) 課題

#### ① 個々の鑑賞と共有しながらの鑑賞

本時の授業では、大机で4人のグループでの鑑賞であったため、個でじっくり鑑賞し考えを持つ前に、グループで出された意見を個の意見のようにして鑑賞したことになってしまう生徒がいた。個でじっくり考えさせ、協力して意見を出し合い共有することで意見を深めるための、

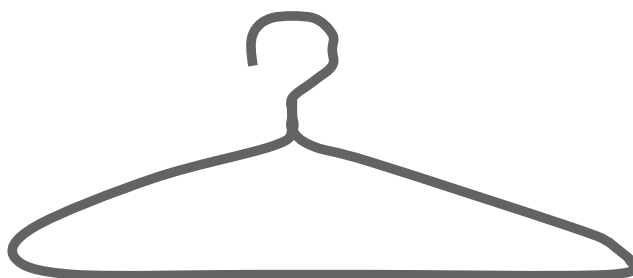
メリハリのある授業形態を取り入れていくことが課題である。

## ② お気に入りの紹介に詰まってしまう生徒

1時間の単発授業であったので、まとめの際に行ったワークシート4「私のお気に入りの機能や美を感じるものの紹介」では、意見を出すことが難しく感じる生徒が多かった。与えられたものから美しさを探すことはできたが、自分の生活の中に目を向けてお気に入りの機能美を選ぶとなると、なんとなく好きという理由で終わってしまう生徒も多かった。生活の中から美しさを探し出したり、普段からお気に入りのものを探し出す視点を生活の中に向ける訓練や習慣づけが必要である。そのためには、生活に結びつく鑑賞授業を学年に一度は行うような継続的な実践や、お気に入りの文房具や生活用品、形や建物、自然や風景に目を向けさせるような題材や自分の美術資料として蓄積していくような取組が大切である。

## 身の回りのものをじっくり見つめよう！

- 1、ハンガーの形から、どのような機能があるのか（形の意味）について考えよう。  
（場所がわかるように→矢印を使い、その部分の機能の説明を周りに書いていこう）



- 2、針金ハンガーと \_\_\_\_\_ ハンガーを比べてみよう！

どちらのハンガーがよいと思うか選び、選んだ（美しい、機能的、好き）理由を書こう。  
「～の方が、ここ（の形）が・・・」という風に説明してみよう。

美しさで比べると \_\_\_\_\_ ハンガーの方が

機能性で比べると \_\_\_\_\_ ハンガーの方が

素材や色で比べると \_\_\_\_\_ ハンガーの方が

もし私が使うとしたら \_\_\_\_\_ で判断し、 \_\_\_\_\_ ハンガーを選びます。

- 3、友達の比べた意見を聞いて、自分にはなかった見方や考え方を発見し、メモしよう。

---

---

---

- 4、身の回りのものの中から、お気に入りの機能や美を感じるものを紹介してみよう。

私のお気に入りには \_\_\_\_\_

---

---



## 検証授業 2

杉並区立中瀬中学校 教諭 福田 龍郎

### 1 題材名

「写真を空間で体験し、味わおう」～杉本博司の「劇場」鑑賞～ B鑑賞（1）ア 第3学年対象

### 2 題材の目標

- ・作品を空間体験的なインスタレーションで鑑賞し、幅広く味わう。
- ・作品からのメッセージを想像し、心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、作品に対する考えを深めるとともに、作品に対する自分の価値意識をもって批評しあい、美意識を高める。

### 3 題材観

#### （1）研究テーマとの関連について

平成25年度東京都教育研究員中学校美術部会の研究テーマは「鑑賞の能力の育成」であり、このために都内公立中学校160校の美術科の教員にアンケートを行った。有効回答数は区部市町村部島嶼部合わせて75校であった。その中で「鑑賞の授業の評価で困ったことはありますか」という設問10に対し、6種類の回答のうち「話し合い活動による鑑賞の評価が難しい」が28%、「生徒の文章力と鑑賞の能力の違いをどのように評価すればよいかわからない」が26%と、回答中の最も高い数値を占めた。このことから、鑑賞の評価についてより充実した方法と内容が求められていると考えた。

また、同じくアンケートの設問4「授業で行う鑑賞の内容について、どのような活動が1番多いですか」には、回答「生活の中の美術の働きに関連した鑑賞」が0%と、最も少ない数値を示した。このことから、生活に結びついた鑑賞についても新たな題材が必要であると考えた。

#### （2）教材観

本題材では、杉本博司の写真作品「劇場」を、大画面で鑑賞する。図版で見るのとは大きく異なり、劇場を模して配置した椅子と暗室、大型スクリーンとプロジェクターの投影という、装置としての空間的インスタレーションによって、生徒たちは自身が作品の劇場にいるかのような体験をする。このことから、①発見-個々に意見をもたせる ②気づき-情報を得て、見つめ直す、他者との関わりの中での気づき ③新たな見方や感じ方-造形的な要素などの見る視点を与える、更なる自分の発見・気づき、自分の中に意味や価値をつくり出すことを、ねらいにした。

また学習指導要領のB鑑賞（1）アより、自分の美意識を働かせ、様々な視点で作品が語りかけてくるメッセージを捉え自分の中で問い返したり、他者の見方も取り入れて、多様な視点から作品に対する考えを深めるとともに、作品に対する自分の価値意識をもって批評しあい、美意識を高めることもねらいとした。そのため、大画面で空間的に作品を鑑賞させ、鑑賞ワークシートを書かせる。発見や気づき、見たことや感じたことを付箋に書き込み、黒板に貼付けさせる。個々の生徒は作品を鑑賞し、書き込み、貼付け、それを互いに読みながら新たな発見や気づき、見方や感じ方を知ることができる。そして互いに述べる姿勢や、鑑賞ワークシートと黒板に貼られた付箋から、文章力だけではない鑑賞の能力、話し合いの様子からみえる鑑賞の能力を評価できると考えた。



また、3（1）で述べた生活の中の美術の働きについて、写真を題材としたのは、生徒たちが生活の中でもっとも目にしている美術の表現のひとつが写真（含画像）だからである。ポスターや広告はもちろん雑誌、メール、インターネットに至るまで写真に接する機会は極めて多い。また生徒たち自身が携帯電話やスマートフォン、コンパクトデジタルカメラの普及によって、以前よりはるかに簡単に写真撮影を行うことができる。美術の中でも生活に密接な関わりをもつ、そうした多様な写真表現の一つを題材にすることによって、生活の中の美術の働きについても思考をめぐらすことが可能となりうると考えた。

さらに、日常生活の中で目にする多くの美術や美術的な事象が、観る者の想像、発見、気づき、見方や感じ方によることから、作者名や題名を伝えずに考えさせ、鑑賞させることで、今後生活の中の美術の働きについても、気づきを増やしたい。

#### 4 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価基準	(A) 作品に関心を持ち、主体的に鑑賞しようとしている。  (B) 他者の意見から、対象の見方や感じ方を広げようとしている。			(1) 作品に対して自分の意見をもつことができる。 (2) 気づきや情報から、作品を見つめ直し、他者との関わりの中で気づくことができる。 (3) 自分の発見・気づきから、自分の中に意味や価値をつくりだすことができる。

#### 5 指導計画および評価計画

時間	学習活動と学習内容	指導上の留意点	評価
導入 5分	○ 学習のめあてについて知る。	・鑑賞の内容と活動について説明する。  ・作品について、作者名や題名、表現分野などは伝えないこと、自ら考え、想像しながら鑑賞することを伝える。	
展開 40分	「劇場」を鑑賞する。  再度「劇場」を鑑賞する。  ○ 作品の中で最も印象的だったこと、気になったもの、気づきや発見があったものを各自で考え、付箋に記入し、黒板に貼る。	・現段階では、友達と意見を交換せず、自分の見方や感じ方を大切にしながら鑑賞することを伝える。  ・2回目の鑑賞の前に、付箋に発見したことや思ったことをメモすることを伝える。 ・記入することは文章だけでなく、短文や単語、図でもよいことも説明する。 ・メモを書いた人から黒板に貼るよう伝える。 ・黒板に貼っていく中で、似た意見や考え、感じ方がある場合には近くに貼るよう伝える。 ・黒板に貼られた付箋を読み、新たに気づいたこと、発見したことも順次付箋に書き、貼ることを伝える。	(A)  (A) (1)  (2)  (B) (2)

	黒板に貼られた付箋を読みながら、考えを深め、ワークシート2に記入させる。  「劇場」シリーズ作品を5点鑑賞する。 (5点目は最初の作品)  ○ ワークシート3に記入する。	・人の付箋の意見を読み、ワークシート2に記入するよう伝える。  ・同じ「劇場」のシリーズを2点鑑賞してから、最初の作品について考えをまとめることを伝える。  ・今日の観賞を振り返りながら、書くように伝える。	(A)  (3)
まとめ 5分	まとめ 本時の活動を振り返る。  作者名と題名を伝える。	・自分と他者の、それぞれの意見、感じ方、想像こそが大切であること、今日の学習活動のように自分自身で想像し、味わうことが大切であると伝える。	

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 鑑賞の能力の発揮と評価、発見、気づきと見方や感じ方の深まり

杉本博司の写真作品「劇場」を、劇場を模した空間と大画面で鑑賞することで、生徒たちは自身が作品の劇場にいるかのような体験をした。2色の大型付箋を使用し、発見したことと感じたことに分けて単語やメモ、スケッチを書かせ、黒板に貼らせ、読ませた。鑑賞に比較的長い時間をかけたことや、同じ作品のシリーズを4点鑑賞したことで比較や理解ができた。評価基準を明確にしたワークシートを準備し、授業の展開の中で段階的に記入を行ったことにより、文章力や言語力だけによらない、鑑賞の能力の発揮と評価ができた。さらに、発見、気づき、鑑賞前後の心の変化、美しさ、良さを基に自分の見方や感じ方を深めることができた。そして、様々な見方や感じ方と共に体験を深めながら、美術的な視点を広げた。

### (2) 課題

#### ① 話し合い活動による鑑賞

本時の鑑賞では、生徒たちの発見や意見を大型の付箋に書かせ、黒板に貼らせることで、相互の理解、意見の共有化を図った。またそれを読む時間や、自分の意見をまとめてワークシートに記入する時間は設けたが、生徒たちに意見交換や質問、話し合いをさせる十分な時間を確保できなかったことが、課題である。時間をかけて個で鑑賞させ、考えさせ、付箋を書かせ、読ませるだけでなく、より柔軟に、生徒たちの相互作用のある授業形態を取り入れること、そうした働きをもった、更に充実した鑑賞の授業を実現することが、今後の課題である。

## 「写真を空間で体験し、味わおう」

感じたこと、考えたことを書いてみよう。

1. 作品を観て、発見したことや思ったことを付せんにメモしよう。青い付せんは発見したこと、黄色い付せんは思ったこと、感じたことです。
2. 黒板に貼られたクラスみんなの付せんを読みながら、あらためて作品で気づいたこと、感じたこと、見つめ直したことを書いてみよう。

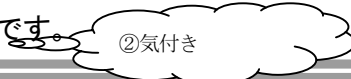
3. 今日の全体を通じて、新しく自分で発見し、気づいたこと、作品を観る前と後で心にあった変化、この作品であなたがとくに美しい、本当によいと思ったことなどを書いてみよう。

# 「写真を空間で体験し、味わおう」



感じたこと、考えたことを書いてみよう。

2. 作品を観て、発見したことや思ったことを付せんにメモしよう。青い付せんは発見したこと、黄色い付せんは思ったこと、感じたことです。



## 《評価ポイント》鑑賞の能力

(1) 作品に対する発見による情報、気付きによる意見をもつことができているか。

3. 黒板に貼られたクラスみんなの付せんを読みながら、あらためて作品で気づいたこと、感じたこと、見つめ直したことを書いてみよう。

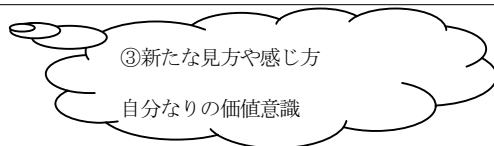
## 《評価ポイント》鑑賞の能力

(2) 気づきや情報から、作品を見つめ直し、他者との関わりの中で気づくことができているか。

## 《評価ポイント》関心・意欲・態度

(B) 他者の意見から、対象の見方や感じ方を広げようとしているか。

4. 今日の全体を通じて、新しく自分で発見し、気づいたこと、作品を観る前と後で心にあった変化、この作品であなたがとくに美しい、本当によいと思ったことなどを書いてみよう。



## 《評価ポイント》鑑賞の能力

(3) 自分の発見や気付きなどから、自分の中に意味や価値をつくりだすことができているか。

### 検証授業 3

練馬区立石神井中学校 主任教諭 中坪 崇敏

#### 1 題材名

「暮らしを飾る日本の心」B鑑賞(1)ア、イ 第1学年対象

#### 2 題材の目標

生活の中の美術に目を向け、何気なく使っているものについて関心を持つとともに、美と機能性の調和と生活における美術の働きを感じ取り、ものの見方や感じ方を広げ、日本の美術文化に対する関心を高める。

#### 3 題材観

##### (1) 研究テーマとの関連について

今回の検証授業では、「生活に結びついた鑑賞」を踏まえつつ、現代の生活にも息づいている「折形」を使い、日本人が大切にしてきた日本文化と使う人に対する作者の温かい心遣いや作品に込められた作者の思いや願いなどに気付かせたい。そして、心豊かに生活を送るためには、身の回りにあるものを通して生活の中の形や色彩などに視点を止め、自分の中にこれまで気付かなかった新たな感覚が生じることで自分の見方や価値観を見いだすことができ、鑑賞の能力を育むことができると考える。

##### (2) 教材観

折形(おりがた)とは、室町時代に確立した日本の礼儀作法で、600年の歴史がある。目録または進物を包む紙の折り方であり、相手を敬い礼の心を表す礼法である。

今回は、「折形(おりがた)」から、日本文化の素晴らしさや心遣いの大切さについて学ぶ。また、様々な折形がある中から、今回は「食」に関係するものを選択することで、生徒にとってより身近に折形を感じることができ、今後の実生活において、暮らしを飾る美術に興味を持ち、自分の見方や価値観を育み、生徒自ら行う美術活動へと結び付けていきたい。

#### 4 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価基準	(1) 日常生活の中にある美術や日本人が大切にしてきた美術文化などに関心を持ち、主体的によさや美しさを感じ取るうとしている。			(1) 日本人が大切にしてきた心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、日本の美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。

5 指導計画と評価計画

時間	・学習活動と○学習内容	・指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業の目標を確認する。</li> <li>○市販されている普通の割り箸(袋入り)をみせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の並びは、班の形態とする。各自に1膳配布する</li> </ul>	
展開 40分	<p>① 折形の箸袋を各班に渡す。(6班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・班長が班の意見をまとめその場で発表する。</li> </ul> <p>○折形を使って包んでいるものと何も包まれていない状態の写真を見比べられるように提示する。</p> <p>② なぜ古くから日本に折形があるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>○箸置きをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動</li> <li>・協力して作業する</li> <li>・何に使うのか発表してもらう(数名)。</li> </ul> <p>③ 折形がない生活とある生活の違いを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動を通して自分の考えをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>○折形について知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班に箸袋3つずつ配布する</li> <li>・和紙の素材の違いにも触れる</li> <li>・自分の見方や感じ方を大事にして、すぐに口に出さず、その考えを個々の具体的な言葉で記入させる。このとき話し合いはしないように注意する</li> <li>・プリントを班で回し読みする</li> <li>・個々の意見を発表し、自分とは異なる意見をメモし、新しい見方・考え方を知る。</li> <li>・5点を黒板に貼る。</li> <li>・折形の方がいいという感情を大切にする。</li> <li>・別になくても困らないものなのに折形の箸袋があるのは、なぜだろう</li> <li>・折形は、なぜ古くから日本にあるのだろう</li> <li>・気遣い、心遣い、おもてなしなどの心</li> <li>・作り方のプリントと和紙を一人2枚ずつ配布する。</li> <li>・二つ同時に折ってもいいことを伝える。</li> <li>・映像を用いて、使い折り方について説明しながら一緒に折る。</li> <li>・この時点では、何を作っているのか明かさない。(ヒント)食に関するもの</li> <li>・何に使うものなのか、課題意識を保たせながら、制作させる。</li> <li>・作業が遅れている生徒を支援する。</li> <li>・お互いに何に使うのか話し合いながら作らせる。</li> <li>・話し合い活動後、自分の考えを記入させる時間をつくるために、一度静かにさせる。</li> </ul>	<p>エ(1) ワークシート</p> <p>エ(1) ワークシート</p> <p>ア(1) 参加状況の確認</p>
まとめ 5分	<p>④ 持ち帰る。(宿題)家で使ってみる。使った人のコメント・感想を書いてくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の食卓で使用してみる</li> <li>・家族に説明させることで自分の考えを整理させる</li> <li>・次回の授業でプリントを回収する。コメント・感想の共有を行う。</li> </ul>	<p>エ(1) ワークシート</p>



今日の  
**appreciation**  
アプリシエーション (鑑賞)

1年 \_\_\_ 組 \_\_\_ 番 氏名 \_\_\_\_\_

ここにプリントを貼ります。(折形とはというプリント)

1. 班に配られた箸を触りながら、自分の考えを記入しよう。全員が記入し終わったら意見交換をして班員の中で共感できる意見を記入しよう。

**手軽に購入できる割箸の袋**  
【自分の考えや意見】

【共感できる他の考えや意見】

**折形で作った箸の袋**  
【自分の考えや意見】

【共感できる他の考えや意見】

《考えるためのヒント》  
色・形・イメージ・光・材料に着目してみよう

2. あなたはなぜ日本に折形があると思いますか？

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

3. 折形がない生活と、ある生活とではどう違うと考えますか？

<b>ない生活</b>	<b>ある生活</b>
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

4. 【宿題】 家で使ってみてのコメント・感想を書いてきましょう。(次の授業でプリントを回収します。)

自分	
自分以外の (            )	
↑親・兄弟など記入	



今日の

# appreciation

アプリシエーション(鑑賞)

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

鑑賞授業とは、

自分の見方や感じ方を、自分の中に新しい意味や価値をつくりだすこと。

- ①発見 ②気づき ③新たな見方や感じ方

1. 班に配られた箸を触りながら、自分の考えを記入しよう。全員が記入し終わったら意見交換をして班員の中で共感できる意見を記入しよう。

①発見②気づき

手軽に購入できる割箸の袋

折形で作った箸の袋

【自分の考えや意見】

話し合い活動は、

- ① 自分の考えを他者に伝えることで自らの考えを整理することができる。
- ② 他者の意見を聞くことでより視野が広がることことができる。

【共感できる他の考えや意見】

【共感できる他の考えや意見】

## 《評価ポイント》鑑賞の能力

美の機能性の調和、生活における美術の働きを感じることができているか。

《考えるためのヒント》  
色・形・イメージ・光・材料に着目してみよう

2. あなたはなぜ日本に折形があると思いますか？

②気づき

## 《評価ポイント》鑑賞の能力

日本文化のすばらしさや心遣いの大切さについて感じる事ができているか。

ワークシート作成については

ねらいを実現するためのワークシートにする。

・評価のためのワークシートになってはいけない。ねらいを実現するための補助するためのものである必要がある。

3. 折形がない生活と、ある生活とではどう違うと考えますか？

③新たな見方や感じ方

ない生活

ある生活

## 《評価ポイント》関心・意欲・態度

今後の実生活において暮らしを飾る美術に興味を持っているかどうか。

4. [宿題] 家で使ってみてのコメント・感想を書いてきましょう。(次の授業でプリントを回収します。)

自分

③新たな見方や感じ方

自分以外の(

↑親・兄弟など記入

## 《評価ポイント》鑑賞の能力

自分の見方や価値観を見いだすことができているかどうか。

## VI. 研究のまとめと成果

平成25年度教育研究員は、調査結果に基づいて「鑑賞の能力の育成」について検証を行い、課題を解決するための手立ての提案という形で、検証授業を中心とした研究を進めてきた。この検証授業の結果から、仮説を立証する一定の成果を得ることができたと考える。今回は調査結果に基づき、「生活に結びついた鑑賞授業」「表現と関連した鑑賞」「美術文化に関する鑑賞」を鑑賞の授業の三つの視点として定め、検証授業を行ったが、改めて、鑑賞の題材はバランスよく行うことが大切であり、特に、生活に結びついた鑑賞を継続的に行うことで、生徒が鑑賞することをより身近なものに感じ、生活の中の美術の働きについて興味をもち、さらに鑑賞の能力が高まるということがわかった。今回は、ハンガー、写真、折形を題材として検証授業を行ったが、生活に結びついた鑑賞授業は様々なアプローチがあり、可能性のある鑑賞の授業をつくることがわかった。

調査結果にみられた鑑賞の能力の評価についての課題は、ワークシートを中心とした発問の工夫により、解決の手立てを図った。鑑賞を通して育成したい資質や能力が見取ることのできるワークシートとはどのようなものかについて考え、具体的に題材の目標に基づいて提案できるように工夫し、それぞれのワークシートの設問が、鑑賞の能力の評価とどのように関連しているのかについて明確にできるよう工夫したことにより、授業のねらいが明確となった。

また、そのようなワークシートを活用することにより、生徒が自ら考え、自分の中に新しい意味や価値をつくり出すことができ、より効果的に鑑賞の能力を高めることのできるきっかけとすることができた。

## VII. 今後の課題

中学校三年間の美術の授業で行うことのできる「鑑賞の能力の育成」には、限りがある。しかし、生徒は、実際には授業以外での生活の中で「鑑賞の活動」を自然に行っており、それを通して、新たな価値を見出し、価値を創造し、自分らしさを確立していく。美術科の授業における鑑賞の能力の育成は、そのために大きな役割を担っていることを再確認した。美術科の教員は、このことを自覚し、さらに充実した鑑賞授業を行っていく必要がある。

生活に結びついた鑑賞を行うことは、生活の中で価値の創造活動を行うきっかけとなる有効な題材となり得ることもわかった。

しかし、今回の検証授業だけでは、生徒自身が生活の中から美しさを探し出し、価値を創造できるまでの取組には至っていない。今後、生活に結びついた鑑賞を継続的に行うことで、それらの力が高まっていくと考える。そのためには、身近にあるものに目を向けさせるような題材を使った鑑賞授業を行い、定期的に生徒の変容を確認するなど、検証と改善を繰り返し行う必要がある。

鑑賞とは、自分の見方や感じ方を、自分の中に新しい意味や価値を創造することである。そのための授業形態については、どのような手立てがあるのかさらに研究を重ね、工夫していくことが必要だと考える。毎時間の鑑賞授業の目標を明確にし、三年間を系統立てた鑑賞授業の目標を設定し、それぞれの題材で育成する資質や能力を明確にし、その能力の育成の手段となるようなワークシートの作成や発問の工夫など、今後も授業改善を継続していく必要がある。

# 平成25年度 教育研究員名簿

## 中学校・美術

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
練馬区	石 神 井 中 学 校	主任教諭	◎中 坪 崇 敏
杉並区	中 瀬 中 学 校	教諭	福 田 龍 郎
羽村市	第 一 中 学 校	教諭	鈴 木 嶺

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 松永 かおり

平成25年度

教育研究員研究報告書

中学校・美術

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

〔平成26年 3月〕

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社